

吟遊・夏石番矢賞二〇二五

Ginyu Ban'ya Natsuisshi Prize 2025

竹 梵 Chikubon



略歴

一九六〇年二月愛知県名古屋生まれ。名古屋大学法学部卒業後、三井住友銀行、会計事務所P&C、三菱UFJキヤピタル、東芝と三菱電機の合併会社であるTMEIC等に勤務。現在、台湾企業2社の在日代表を勤め、服部栄養専門学校やIT事業者等の顧問に就任中。家族と共に東京に在住。吟遊の会員であり、世界俳句協会の会員でもある。東京で開催された第8回世界俳句協会大会とイタリア・パルマで開催された第9回世界俳句協会大会に参加。同時に、漢詩サークル・葛飾吟社と2つの連句結社に所属。二〇二四年月刊「俳句界」12月号に漢俳に関する記事を寄稿。日本語教師と通訳案内士の資格を持ち、世界各国言語を学習することと旅行を趣味とする。日本語で句作のみならず、英語俳句や漢語俳句の創作にもチャレンジしている。

授賞理由

古典的修辭と現代的語彙の結合から生まれるユーモア

授賞作

●「吟遊」第一〇三号（二〇二四年七月）

山割ったいだらぼつちがのっぺりと

一二三四五あと二円足りない

袋小路小町自慢の野ばら咲く

草茂る境界標に鳩首の眼

翌朝肛門が石膏で固まった

ゴーグルに春はあけぼの東山

●「吟遊」第一〇四号（二〇二四年十月）

火炎樹の紅映ゆる道塩が吹き

イエイエイエの振りなお熱きエイティーズ

迷走の台風のごと天牛も

ミサイルをくれ！ タイに持ち込むリング際

「移民が猫喰う」リップじいさんなぜか健在

●「吟遊」第一〇五号（二〇二五年一月）

人なべてクリック数を競ふ世に

カメレオン変幻自在君を惹く

その賭場ぢや取らぬテラ銭思考剥ぎ取る

言葉の矢無間地獄に落とすもの

繋がれば繋がるほど孤独になる

東西ビーナスその異なる腰の線

●「吟遊」第一〇六号（二〇二五年四月）

廻りくる決算の日々春隣

ドーバーの海峡潜る酒談義

貸し農園ハクビシンいで整地せり

料峭に腸内和音のトレモロ奏

おたくの名息子と同じって、老母言う

おしっこにいくって！一分前行ったでしょ

天狼の一点響く樹々の上